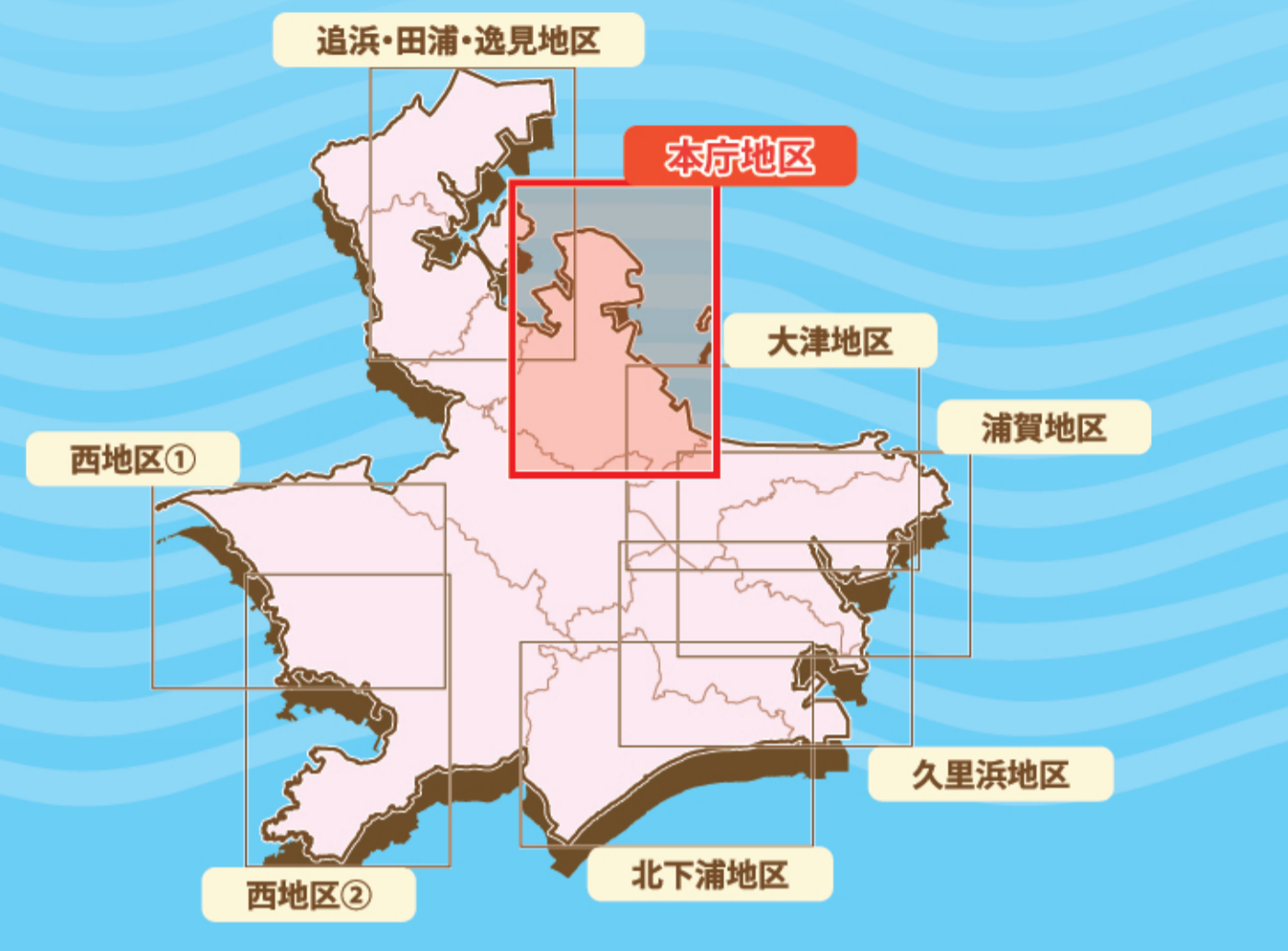


横須賀市 津波ハザードマップ

本庁地区

～一人ひとりが迅速適切に避難するために～

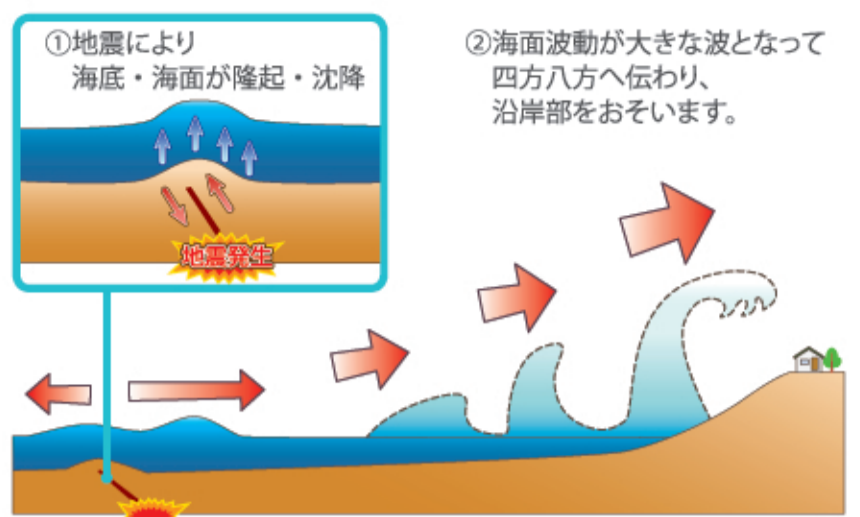


この津波ハザードマップは、津波に対する正しい知識と、自分の生活する場所の特性を理解いただき、いざという時に、迅速適切な避難行動を身に付けていただくために作成したものです。

【お問い合わせ】 横須賀市市民安全部危機管理課
Tel: 046-822-8357 Fax: 046-827-3151
e-mail: ps_pc@city.yokosuka.kanagawa.jp 平成25年1月現在 横須賀市

津波の基礎知識〈1〉

津波とは？
津波の「津」とは、船着場や渡し場を示す港を意味します。すなわち、「津波」とは津(港)に押し寄せる、非常に大きな海水の塊です。津波は、海底で発生する地震に伴う海底地盤の隆起・沈降や海底における地滑りなどにより、その周辺の海水が下に変動することによって引き起こされるものです。発生した海水面の動き(上下動)が大規模なものであれば、沿岸に達すると凄まじい破壊力の津波となります。
また、津波は地震による断層運動や海底での地滑りだけでなく、海底火山の噴火などによっても引き起こされることがあります。



近地津波と遠地津波

近地津波	遠地津波
日本沿岸を震源とする地震等により発生する津波 (例) 太平洋側：2011年(平成23年)東日本大震災、東海地震、東南海・南海地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震など 日本海側：1983年(昭和58年)日本海中部地震、1993年(平成5年)北海道南西沖地震など	遠方を震源とする地震等により発生する津波 (例) 1952年カムチャッカ地震、1960年チリ地震、2010年チリ中部沿岸を震源とする地震など

海外の地震で発生した津波のうち、日本およびその周辺沿岸に影響を与えた主な津波

ハザードマップのチェックポイント

チェック1 津波がどのように発生するかわかりましたか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい・・・ <input type="checkbox"/> いいえ・・・「津波の基礎知識〈1〉」を確認してください。
チェック2 発表された津波警報の種類によって、浸水区域が違うことが理解できましたか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい・・・ <input type="checkbox"/> いいえ・・・「地図面の凡例と浸水区域」を確認してください。
チェック3 津波からの避難の心得はわかりましたか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい・・・ <input type="checkbox"/> いいえ・・・「津波避難の心得」を確認してください。
チェック4 大津波警報、津波警報、津波注意報の違いがわかりましたか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい・・・ <input type="checkbox"/> いいえ・・・「津波情報」を確認してください。
チェック5 津波の高さは、場所によって予想された高さよりも高くなるのが理解できましたか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい・・・ <input type="checkbox"/> いいえ・・・「津波の基礎知識〈2〉」を確認してください。
チェック6 自分が生活する場所の標高と浸水区域がわかりましたか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい・・・ <input type="checkbox"/> いいえ・・・「地図面」を確認してください。
チェック7 津波のスピード、津波の破壊力など、津波の特徴がわかりましたか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい・・・ <input type="checkbox"/> いいえ・・・「津波の基礎知識〈2〉」を確認してください。
チェック8 自分が生活する場所がどの津波予報区がわかりましたか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい・・・ <input type="checkbox"/> いいえ・・・「津波予報区」を確認してください。

ハザードマップの使い方

大きな被害をもたらす災害から、人命・財産を守るためには日頃の準備が必要です。このマップを使って家族で話し合い、普段から目につきやすい場所に保管して防災意識の向上を心がけましょう。

- 1 自宅の位置と、自宅付近の避難目標となる高台を確認しましょう。**
自宅付近の、浸水の状況を確認しましょう。自宅がある場所は何色に塗られていますか？次に、自宅付近の避難目標となる高台を確認しましょう。
- 2 低地や危険箇所を避け、避難経路を設定しましょう。**
標高の低い箇所や、危険な箇所を避けて避難経路を設定しましょう。
- 3 実際に避難経路を歩いてみて、安全を確認しましょう。**
避難経路を実際に歩いてみましょう。危険な箇所がある場合には、避難経路を見直しましょう。

津波情報

津波警報・注意報

津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後約3分で気象庁が「大津波警報」「津波警報」または「津波注意報」を発表します。その後、「予想される津波の高さ」「津波の到達予想時刻」等の情報を発表します。

予想される津波の高さ	とるべき行動	想定される被害
巨大 (表記しない) 20cm～1m	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や鉄筋コンクリートの建物の上階など安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。 (10mを超える津波により木造家屋が流失)
大津波警報 10m超 (10m～)		
津波警報 10m (5m～10m)		
高い 3m (1m～3m)	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう！ 	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報 (表記しない) 1m (20cm～1m)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。乗っ払いが流失し小型船舶が転覆する。

この表は平成25年3月7日から運用を開始します 出典：気象庁資料

津波の基礎知識〈2〉

津波の特徴

- 繰り返して襲ってくる**
津波は二度、三度繰り返し襲ってきます。必ずしも第1波が最大とは限りません。津波注意報や津波警報が解除されるまで海に近付いてはいけません。
- 深海ではジェット機並みの猛スピード**
津波の速さは、海の深さに関係し、深海5000mでは、ジェット機並みの速さになります。水深が浅くなるほど速度は弱まりますが、水深10mの海岸近くでも時速36km前後あり、この速さはオリンピックの短距離選手並みの速さです。
- 地形による津波の変化**
津波の高さは海岸付近の地形によって大きく変化します。さらに、津波が陸地を駆け上がる(遡上)することもあります。岬の先端やV字型の湾の奥などの特殊な地形の場所では、波が集中するので、特に注意が必要です。津波は反射を繰り返すことで何回も押し寄せたり、複数の波が重なって予想された高さよりも高い波となることもあります。また、遠浅の地形のほうが高くなることもあります。
- 恐るべき津波の破壊力**
津波は、海底地盤の上下による海水全体の動きのため、海底から海面までの全ての海水が巨大な水の塊となって沿岸に押し寄せ、その破壊力は凄まじいものとなります。また、引き波も長時間にわたり引き続けるために、家屋などが一気に海中へと引き込まれてしまいます。
- 水深が浅くても危険**
水中では歩行速度が低下するため、少しの浸水でも避難の妨げになってしまいます。また、津波は勢いのある水が押し寄せてくるため、深さ15cmでも足元をすくわれてしまう可能性があります。

津波予報区

津波予報区とは？

気象庁は、全国の沿岸を66に分けた津波予報区ごとに大津波警報、津波警報、津波注意報を発表しています。これらの津波予報区は、地形により異なる津波の現れ方の特徴を調査した上で、警報・注意報が発表されたときの自治体などの関係防災機関での緊急対応も考慮して設定されています。

出典：気象庁資料

津波予報区 横須賀市付近拡大図
下図の神奈川県内の津波予報区は「観音崎東端」です。

津波避難の心得

避難の心得

- 津波の発生を察知する**
 - 1 地震の発生**
 - ・地震4以上の地震が発生した時
 - ・ゆっくりとした揺れが長く続く時
 - 2 海面の異変**
 - ・急な引き潮が起きた時
 - 3 津波警報の発表**
 - ・テレビやラジオ、インターネットで津波警報などが発表された時
 - 4 避難の呼びかけ**
 - ・防災行政無線(サイレンが鳴ります)や防災メールの呼びかけがあった時
- 適切に避難する**
 - 一刻も早く高い所へ逃げる!**
津波から避難する時は、遠くへ逃げるよりも一刻も早く高い所へ逃げましょう。
 - 原則として車は使わない**
車での避難は、地震による道路等の損傷や液状化などの交通障害の発生により避難のものが不可能となる可能性があります。また、徒歩による避難者の円滑かつ安全な避難の妨げとなる恐れがあります。
 - 引き波が無くても津波は来る**
地震の起こり方によっては引き波が無いこともあります。引き波が無くても津波が到達することがありますので注意しましょう。
- 海岸にいた時**
 - ・避難の指示や動を待たず、ただちに高台や鉄筋コンクリートの建物の上階へ避難しましょう。
 - ・津波は繰り返し襲ってくるので、いったん波が引いても、津波注意報や津波警報が解除されるまでは絶対に戻ってはいけません。
 - ・海水浴中の場合は、監視員等の指示に従って避難しましょう。
- 川のそばにいた時**
 - ・津波は川を遡上することがあり、上流側に避難しても津波は押し寄せてきます。川に背を向けてすばやく避難しましょう。

ハザードマップについて

想定する地震と震源域

このハザードマップは、平成24年3月に神奈川県が公表した「津波浸水予測図」をもとに作成しています。県の津波浸水予測図は、最大クラスの津波を想定したものです。「最大クラスの津波」とは、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波で、次の12の津波を想定しています。

- ①明成型地震
- ②慶長型地震
- ③元禄型関東地震と神縄・国府津-松田断層帯地震の運動地震
- ④南関東地震
- ⑤神奈川県西部地震
- ⑥東海地震
- ⑦神奈川県東部地震
- ⑧神縄・国府津-松田断層帯地震
- ⑨元禄型関東地震
- ⑩房総半島南東沖地震
- ⑪三浦半島断層群-鴨川低地断層帯地震
- ⑫東京湾内地震

なお、県の「津波浸水予測図」は、神奈川県が一定の条件に従って、予測を行った結果に基づき、津波の浸水が予測される区域を示したもので、津波による災害の発生や被害の範囲を決定するものではありません。(浸水区域の範囲外でも、津波の浸水が発生する場合があります。)
地震別の浸水区域や浸水深は、神奈川県ホームページ等で確認してください。

津波の高さ
「津波の高さ」とは、津波がない場合の潮位(平常潮位)から、津波によって海面が上昇したその高さの差を言います。